

オバマ米国大統領の広島訪問を歓迎

核兵器のない世界への前進を期待

2016年5月25日

5月26日、27日に開催される伊勢志摩サミットにあわせ、米国オバマ大統領が27日に被爆地広島を訪問することとなった。

2009年4月にオバマ大統領はプラハで「核兵器のない世界」を訴え、ノーベル平和賞を受賞するなど、当時は核兵器廃絶に向けた機運が高まった。しかし、最近では核兵器廃絶に向けた進展は少なく、逆に北朝鮮が核実験を繰り返すなど脅威が高まっている。

こういった中であって日本は、世界の政治指導者や若者が被爆地である広島・長崎を訪問して、核兵器のもたらす悲惨な状況を認識してほしいとのメッセージを発信してきた。そして、昨年8月6日にはケネディ駐日米国大使が広島の平和祈念式典に参列し、今年4月11日には先進7カ国外相会議で来日したケリー国務長官が平和公園や原爆ドームを訪問するなど前進があった。そして今回、現職の米国大統領が広島を訪問することとなった。米国国内には、原爆投下についていろいろな意見がある中で、大統領が広島訪問を決断したことは高く評価される。

核兵器は二度と使用してはならない。オバマ大統領が2009年に訴えた「核兵器のない世界」の実現に向けて、米国がリーダーシップを発揮し、具体的な核軍縮につなげていくことを強く期待する。

KAKKINは、昭和36年の結成以来、核兵器廃絶に向け取り組みと被爆者支援の活動に取り組んできた。また、平和への思いを込めて、全国に呼び掛けたカンパで、広島市に「平和の灯」を、長崎市に「平和の泉」を寄贈し、それぞれ現在では恒久平和のシンボルとして位置づけられている。KAKKINは、毎年8月に広島・長崎で平和集会を開催しているが、今後も核兵器廃絶に向けた活動を継続していくことを誓う。

以上